

第1回 八尾市人権教育・啓発プラン策定審議会
ワーキング部会A こども・学校 会議録【概要】

1. 開催日時

令和7年10月6日（月）18:00～20:00

2. 開催場所

八尾市役所本館6階 大会議室

3. 出席者

※ 委員8名中7名が出席。本審議会の規則第6条第2項の規定に照らし、有効に会議が成立。

（委員） 浅井委員、石田委員、伊藤委員、伊原委員、小川委員、梶山委員、松田委員
（傍聴者）1人

（事務局）人権ふれあい部人権政策課係長 池田
人権ふれあい部人権政策課副主査 山崎
八尾市教育委員会人権教育課参事 堂國
株式会社HRCコンサルティング 東野・松村・小西

4. 案件

- （1）ワークショップ
1. オリエンテーション
2. グループワーク
（2）その他

5. 会議資料

- ・ パワーポイント資料
- ・ 第1回ワーキング部会A. こども・学校の進め方
- ・ 第2回ワーキング（全体会）グループワークのまとめ
- ・ 第1回ワーキング部会A. こども・学校 ワークシート

6. 議事内容

【1班】

<グループ発表>

1班は前回の話を思いだしつつ、新しいキーワードも出しながら、学校でめざしたい人権教育・啓発の目標の姿について話しました。

前回は「笑顔」という言葉が多く出ましたが、「笑顔」を目標の姿にすることについて、一人ひとりにとって「こどもの笑顔」のとらえ方はそれぞれ違うと考え、「こどもの笑顔」というと、どんなものを思い浮かべますか？という話から入りました。

どうやったらこどもが笑えるのか、笑顔になれるのかというところで、こどもが満足している状態や環

境、友達との関係性のなかで協力できること、一人ひとりがいろんな場面で自分なりの活躍ができること、人との違いを楽しめること等の意見が出ました。

また、「思いやる」という意見も出ましたが、人権問題を思いやりで解決しようとする個人の問題にしてしまう懸念があります。社会の構造の中で考えることが大事であり、やっぱり他者視点というか、人との関係を考える中で、「1人やったら笑顔になる」というより、「いろんな環境や人間関係の中で、笑顔になっていけるのがいい」ということで「相手のことを考えられる」ことを大切にする等、さまざまな意見が出ました。

そこには、環境を整えることが大事だから、自分で決めたり、力を発揮したりするためには、学校の中だけじゃなく、それを支える多くのサポートが必要で、子どもたちが正しい情報を得る必要があるという話をしました。

そして、それを阻む障壁は、親の考え方をはじめ、能力主義、受験のシステム、競争させられる社会という意見が出てきました。また、相手のことを考える、人との関係性を考えるという時に、子どもたちのソーシャルスキルが得られる「人との交流・体験の機会」が圧倒的に減っている。遊ぶ時間も場所もないし、さまざまな経験や貧困の問題で格差があるし、年齢でも差が出る。

環境で言えば、先生の数が多いし、先生がしなければならぬことに対して学校でできる時間も足りない。1クラスあたりの生徒数が多いという意見も出ましたが、「少なすぎても、関係性が固まってしまっている」とも教えてもらいました。

その他、「相手のことを考え過ぎて気を使ってしまうこともある」という意見も出ていましたし、正しい情報がなくて、違いがあることで排除・差別することも、現実には起きているという話もありました。

取り組むべき課題としては、親も子どもも経験が足りないというところで、それができる場所や時間が必要である。目的別の公園など。とにかく、多くの子どもが公園で遊んでいても、学校に電話がかかからないような公園。子どもがしっかり遊べる経験ができれば、スキルアップしていけるのではないのでしょうか。

学校の中では、SSW(スクールソーシャルワーカー)とかSC(スクールカウンセラー)が増えているとのことなので、それによって「先生と子ども」や「子どもと子ども」の時間が増やせるようにできないか。

また、保護者が「自分の子どもだけしか見えない」というのではなくて、保護者も「子ども」という概念で「どの子どもも大事」という意識や、子どもの話や思いをしっかり聴くこと。それは親だけでなく、そういう人が多くいればいい。

そういった社会をつくっていく中で、「子どもの権利」にすぐ理解を深める必要があるという話になりました。大人も子どもも差別を許さないなど、いろんな課題があるので、そこを解決するためのベースになるような人権感覚や意識を育てられたらいい。

また、ワーク外で出た話では、研修のあり方について、あまりお金のかからない「いい研修」を先生が一生懸命探してやっているという話もありました。自分で見つけて参加する研修は、お金がかかる・かからないで線を引かないといけないので、そういった有益情報が先生たちの間で共有し合えるようなプラットフォームがあるようなので、ちょっと補足してもらいます。

研修にかけられる費用がなかなかないので、先生を引っ張ってくる。さまざまな知識を持った先生が研修することも必要だし、子どもが専門家から話を聞くことも非常に重要だと思っているので、その辺りを話しました。

【2班】

<グループ発表>

1班の話と非常に似ていると思ったのは、2班でも、こどもの権利や研修のあり方等は意見として出ました。

学校でめざしたいこどもたちの姿や目標では、正しい「こどもの権利」を知ることが一番。これは、こどもも大人も同じです。

大人も自分が小さいときにそういう教育を受けていないので「こどもの権利」を知らない大人がいる。その大人が教育を行うことで、「こどもの権利」について知らないのに教えたり、教えられないことがあるからこどもたちが「自分たちは権利の主体者」という意識がないまま、言いたいことも言えず、こどもの声の指導ができないという課題になっているのではないか、そういう背景があるのではないか、という話になりました。

もう1つは、仲間と繋がる、一緒に頑張れる友達をつくることも大事です。

でも、それを阻んでいるのは、先生らにゆとりがなくて、そういう繋がりをつくる学習をしていない、何かこどもたち同士が繋がり方も知らない、クラスの人数が多すぎる、少なすぎるので、そういう繋がりをつくることも大事です。そういうことを学べる環境で、先生もゆとりがないので、人員を配置してほしい、予算をつけてほしいという話になりました。

また、こんな力をつけてほしいというところで、エンパワーメント、新しい情報を知ること、レジリエンスなど、同じ意見が出ていたと思いました。学校教育の中でそういう力をつけるなら、人も時間もお金も必要という話になって、取り組むべき課題では、先生が悩みを共有することについて何かいい方法がないかという話になったのと、こどもの権利では、大人の人権意識を育む、なかなか大人を変えることは難しいですが、大人を変えないとこどもも変わらない。

変わらないこどもが大人になったときには、また固まった大人になってしまうという悪循環をどこかで断ち切らないといけない、という話になりました。

学校だけではなく、地域との連携で、地域の方の出前授業などは、さまざまな出会いから学ぶことも多いし、そういうところでこどもたちの生き方を広げていく、繋がりやさまざまな力をつけるためには人権学習を充実させることと繋がっていきませんが、体験してよかった！楽しい！と思えるような人権学習ができればいい。

最後は、今の社会は、情報についてなかなか考えずに全部受け取ってしまって、それが正しいかどうかを、こどもたちは見極める力がまだまだ弱いという話になったので、正しく知ったり、少し立ち止まって取り組めることはないか、次回話したいという意見がありました。

以 上